

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1年後期	1	2	教職必修
担当教員			
菅野 文彦			
添付ファイル			

講義概要	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について考察する。まず、人間の「発達・成長」と「教育」との関わりから教育の意味を考える。次に、このことを先人たちがどのように考えてきたのか、教育理念及び教育の歴史の変遷を概観する。特に現代教育観の源流となる近代以降の教育思想や、学校の成立及びそこでの教育内容・教授方法の歴史について詳しく考察する。最後に、これからの社会における教育理念の在り方について検討する。授業形式は講義中心となるが、テーマを設定した討論を行うなどのアクティブラーニングを通して、受講者各自がそれぞれに教育理念を描けるようにしたい。		
授業計画	1	オリエンテーション ・この授業のねらいである「教育観の形成の第一歩」の意味を説明する。 ・これまでの教育に関する体験を振り返る ・「教育」「学習」のイメージについてAL①を行う。 準備学習：自分のこれまでの学習歴を振り返る。 課題：授業で示された他の人の「教育」「学習」のイメージを整理し、自分自身のそれを見直す。(AL④)	
	2	人間の発達・成長と教育① ・物質形成や動物との比較から教育の意味を理解する。AL①を行う。 準備学習：テキスト第1章(特にP10～13)を読んでおく。 課題：「教育」の語義を整理し、その中で気になる用語をより深く調べる。(AL④)	
	3	人間の発達・成長と教育② ・教育の意味について、環境の重要性について理解する。AL①とAL②を行う。 準備学習：テキスト第2章1(P16～22)を読んでおく。 課題：遺伝優位説、環境優位説、相互作用説それぞれの説を支える理論を整理し、関心を持った学説については詳細を調べる。(AL④)	
	4	人間の発達・成長と教育③ ・人間の発達段階と教育・学習の関係について理解を深める。AL①を行う。 準備学習：テキスト第2章2～4(P22～44)を読んでおく。 課題：脳科学の最新の知見をまとめる。(AL④)	
	5	教育思想の系譜① ・古代から中世までを概観し、現代との教育観との相違を理解する。AL①とAL②を行う。 準備学習：テキスト第3章及び第4章3(P79まで)を読んでおく。 課題：日本の子ども観と教育思想を整理する。(AL④)	
	6	教育思想の系譜② ・近代教育学の基本原則を理解する。AL①を行う。 準備学習：テキスト第4章4・5を読んでおく。 課題：テキスト第4章4(P80～84)に登場する教育者の考え方を整理し、近代教育学の思想的特徴を理解できるようにする。(AL④)	
	7	教育思想の系譜③ ・新教育運動にみられる現代教育学の原則を理解する。AL①とAL⑥を行う。 準備学習：テキスト第4章6・7を読んでおく。 課題：「教育の目的」という観点から、授業で扱った教育思想を整理する。(AL④)	
	8	教育思想の系譜④ ・わが国における教育思想の変遷を理解する。AL①とAL②、AL⑥を行う。 準備学習：テキスト第5章を読んでおく。 課題：第二次世界大戦前の教育の特徴を制度・思想の両面で整理する。(AL④)	
	9	学校教育の歴史的展開① ・学校の起源と成立を理解する。AL①とAL③を行う。 準備学習：「学校」の語源、ヨーロッパにおける学校の成立について調べておく。調べ方は自由。(AL③) 課題：授業で理解できたことを整理する。	
	10	学校教育の歴史的展開② ・公教育の理念と学校の制度化を理解する。AL①とAL③を行う。 準備学習：近代以降の「公教育」の理念を調べる。調べ方は自由。(AL③) 課題：授業で理解できたことを整理する。	
	11	学校教育の歴史的展開③ ・教育内容の拡大と分化について理解を深める。AL①を行う。 準備学習：現行学習指導要領の総則を読んでおく。 課題：授業で明らかにした戦後の学習指導要領の変遷をまとめる。	
	12	学校教育の歴史的展開④ ・教授方法と学習組織について理解を深める。AL①とAL③を行う。 準備学習：配布資料に掲載された教授方法をまとめる(AL③) 課題：自分が一番採用したい教授方法に基づいた授業指導案をまとめる。(AL④)	

	13	現代社会における教育の目的と理念① 改正教育基本法にみる現代日本の教育の理念を中心に論ずる。AL①を行う。 準備学習：テキスト第6章1を読んでおく。 課題：改正教育基本法第1章の条文第1条～第4条を暗記する。
	14	現代社会における教育の目的と理念② 「社会全体で教育の向上を目指す」とは、どういうことかを検討する。AL①とAL②を行う。 準備学習：テキスト第6章2を読んでおく。 課題：「生涯学習」「生涯教育」の考え方をまとめる。
	15	これからの教育のあるべき姿 今後の社会に相応しい教育のあり方を検討する。AL①、②を行った上で、AL⑤、⑥を行う。 準備学習：テキスト第6章3を読んでおく。 課題：授業時の話し合いを考慮に入れた上で、「これからの教育のあるべき姿」を文章にまとめる。(AL④)
	16	定期試験
授業形態	テキスト等を用いた講義が中心 アクティブラーニング：①：15回, ②：5回, ③：3回, ④：10回, ⑤：1回, ⑥：3回	
達成目標	教育という営みは人間にとってどのような意味を持つものか、その歴史的経過の考察を通して教育の目的や理念を検討し、さらに現代社会における教育の在り方を探る。このような講義を通し、教育の基本的概念を十分に理解し、同時に、教育の歴史や思想に関する教養を習得することを到達目標とする。 1. 教育界に影響を与えた人物とその思想を理解できる。 2. 現代日本の「教育の目的」を十分理解できている。	
評価方法・フィードバック	定期試験70%、講義内の課題30%の割合で総合評価する。原則として、課題等のフィードバックは次回以降の授業内で実施する。	
評価基準	秀(1.2)：90点以上、優(1.2)：89～80点、良(1.2)：79～70点、可(1.2)：69～60点、不可：59点以下 ただし、カッコ内は、達成目標の項目を示す。	
教科書・参考書	教科書：「教育原理」 寺下 明 著 (ミネルヴァ書房) 参考書：「教育をどうする」 岩波書店編集部 編 (岩波書店) 「教育入門」 堀尾 輝久 著 (岩波新書) 「自ら学ぶ子を育てる」 (子どもの発達と教育) 無藤 隆 著 (金子書房) 「教育思想史研究 子ども (人間) 観の発展と公教育」 川瀬 八洲夫 著 (酒井書店) 「教育用語辞典」 山崎英則・片上宗二 編集代表 (ミネルヴァ書房)	
履修条件	教職課程を履修していること。	
履修上の注意	講義をただ聞くのではなく、その中で自らの教育についての考え方を練りあげられるように努力すること。	
準備学習と課題の内容	・授業計画中に記載されている「準備学習」の内容(1.5時間)を必ず行うこと。 ・授業計画中に記載されている「課題」の内容(1.5時間)を必ず行うこと。第1回～第14回までの課題は、ノートに行い、常に目を通すようにすること。第15回の課題はA4レポート用紙を使用し、作成すること。	
ディプロマポリシーとの関連割合(必須)	知識・理解:50%, 思考・判断:15%, 関心・意欲:15%, 態度:10%, 技能・表現:10%	
DP1 知識・理解		
DP2 思考判断		
DP3 関心意欲		
DP4 態度		
DP5 技能・表現		